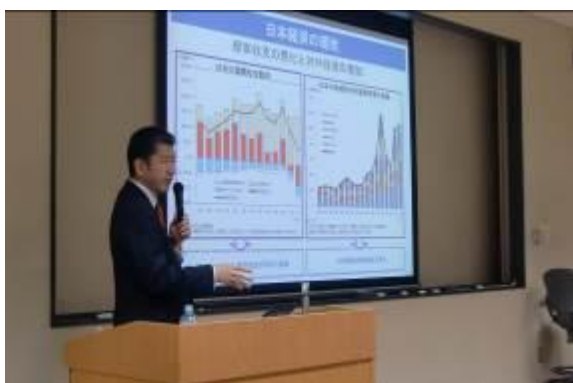
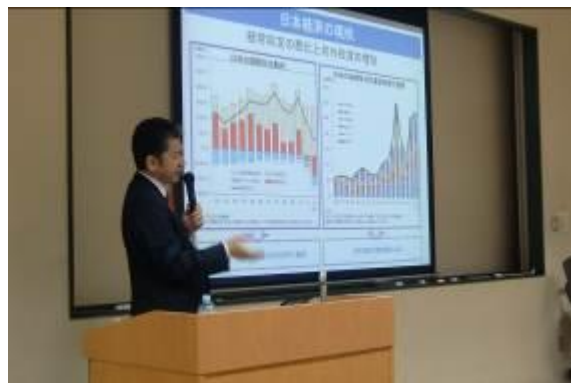


第 51 回 国際経済協力セミナー
国際ビジネスの最新動向とジェトロの活動
講演者：佐藤拓氏
日本貿易振興機構 総務部 主査

文責：永井哲平
草案作成：林繁芳



51 回を数える今回は、日本貿易振興機関（JETRO）でご活躍中の佐藤拓氏をお迎えして講演が行われた。氏は自身のお仕事や、JETRO の施策などについて丁寧に説明して下さり、非常に聴きやすい講演であった。佐藤氏は、主に、安倍政権の掲げた経済政策「三本の矢」の一つである、「民間投資を喚起する成長戦略」に関する JETRO の取り組みについてお話しされた。成長戦略として JETRO が行っている行動では、1.対内直接投資の拡大、2.農林水産物・食品輸出の拡大、3.新興国市場の開拓が紹介された。

1. 対内直接投資の拡大

一般的に日本は海外に工場を建てて生産拠点を置いているように思われがちだが、その逆のことも行われていて、海外の会社を日本に誘致し、工場の建設を勧める活動をJETROは行っている。海外の会社にとって日本に工場を設置する魅力は以下の3つである。

- (1)日本が世界に誇る最先端技術
- (2)品質の高い部品、素材の調達が可能であること
- (3)巨大な日本市場への参入を狙える

JETROはこれらのアピールポイントを前面に押し出した企業誘致を行っていて、積極的に海外に出向くにはコンサルティングを行って、海外企業を日本に誘致している。しかし、現状は、ビジネスコストの高さや言葉の問題、人材確保の難しさなどで日本に投資する海外企業は比較的少ないままである。法人税の高さや、参入に必要な書類が日本語であるなどが大きな障害である。また現状では日本に販売拠点を設けるのみの外資企業が多く、地域雇用にあまり貢献していないのである。さらに近年では東アジア各国に投資が流れており、国内の外資企業が国外に移転することもある。

2. 農林水産物・食品輸出の拡大

日本産の食品は安全性が高く、なおかつ品質もよい。これを売りにして以前から行ってきた食品の輸出をさらに拡大させるのがJETROの狙いである。具体例を挙げるならば、牡蠣は世界各国で盛んに輸入が行われており、取引量が高い。しかし、食品輸出の障壁となっているのが規制や消費期限の短さなどである。このような障壁を乗り越えるために、例えば、うどんの輸出業者などはうどんを冷凍して輸出するなどして、工夫を凝らしている。このようにして、日本の魅力の一つである食品を、海外に発信しようとしている。

3. 新興国市場の開拓

JETROは特にアジア地域の新興国の発展を重視していて、海外に日本企業のための貸しオフィスを建設、アドバイザーを派遣するなどして、支援を行っている。具体的にはインド、ミャンマー、インドネシア、タイ、ベトナムなどの国である。また、アジアだけにとどまらず、日本企業のイラクでのビジネス支援、第5回アフリカ開発会議(TICAD V)を受けて、従来のアフリカ支援から「アフリカ市場の取り込み」へと戦略を転換するなど、他の新興国に対しても積極的に開拓を行っていく姿勢を見せている。

講演のなかで特に佐藤氏が特に強調されていたのは、海外企業の日本への誘致の大切さである。日本は現在実数では多額の外資企業が参入しているが、GDP比で見ると、

国内の外資系企業は 3.7%でしかなく、世界で下から 7 番目である。さらに近年日本の外資離れが進行し、外資企業が拠点を日本からアジア各国（中国、インド、シンガポール等）に転換しようとしている。日本企業でさえ、東アジア各国に転出しているため、日本国内の産業空洞化を招いている。今では企業が国を選ぶ時代だといえよう。佐藤氏はそのうえで、外資誘致で成功を収めたケンタッキー州の事例をもとに、企業誘致を行うことで、その地域にどれだけの利益があるのかを力説された。日本人は概して、誘致に対してネガティブなイメージを抱きがちだが、利益の面でいうと、その地域の雇用を創出したり、税収を増やしたりするなど、地域の発展に寄与するものばかりである。この点を日本国民に知らせ、誘致に対するマイナスイメージを取り除いていくことも、今後の JETRO の課題となるだろう。

質疑応答

- Q. FTA や EPA の締結など政府の外交政策によって JETRO の支援する中小企業は大きな影響を受けるが、JETRO は政府とどのように連携しているのか。
- A. 政府間交渉に入る前に、相手国の政府系の研究機関と協力するなどして事前研究を行っている。

今回の講演では、日本の持続可能な成長を確保するために、今、外国企業誘致が必要とされているが、なぜ必要とされているのかを、佐藤氏は詳しく説明してくださった。また、外国企業誘致という仕事に関しても、自身の経験談を交えた興味深いお話を聞くことができた。